

構造改革船第1号の成功を!

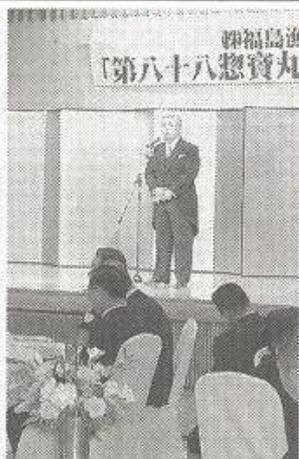
業界一同が竣工祝う 福島漁業の第88惣寶丸



竣工した国内初の巻網ミニ船団本船の第88惣寶丸

【八戸】国内初の巻網ミニ船団を誕生させた福島漁業(青森県八戸市、福島哲男社長)は13日、同市の八戸プラザホテルで本船「第88惣寶丸」(300ト)の竣工祝賀会を開いた。県内外の巻網船主や行政、建造関係者ら120人が出席、新船竣工を祝った。

福島社長は「長年、全国の巻網船主有志らと巻網漁業の将来あるべき姿を議論してきた。このミニ船団は行政や同志の方々の努力の結集。巻網漁業の生き残り策に役立つように業界の皆さまの期待に応えていきたい」と



あいさつする福島社長

出席者にお礼を述べた。来賓の地元選出の大島理森衆院議員(元農水相)が「日本の水産物自給率低下は漁船漁業の衰退を反映している。漁船漁業の技術のあり方も含め、そうした中での福島社長の勇断は大変ありがた

「日本漁業は水揚げ至上主義ではなく沿岸・養殖業も含め効率経営型へのシフトを図り、役所も知恵を出していく。構造改革の勇断は第1号の第88惣寶丸は日本漁業の礎であり、あえて大漁祈願ではなく、安定経営を祈願する」とあいさつ、三村申吾県知事(代読・長谷川義彦出納長)、中村寿文八戸市長も祝辞を述べ、

北部太平洋まき網漁連の岩崎寿男会長が「21世紀を開く船。必ず成功を」と乾杯発声。祝賀会では建造した三保造船所(静岡)の木嶋武郎社長が新船の特徴を紹介した。巻網ミニ船団は、一般的な従来の4隻編成とは異なり、本船と運搬船1隻の2隻編成。船団縮小で初期投資を抑え、人件費などランニングコストも削減、少量漁獲でも採算の取れる「効率経営型漁業」を目指す。第88惣寶丸はカツオ・マグロ主体に操業、今月下旬出漁する。同日午前市内のふ頭で業界関係者に披露された。